



ペリティビティ

1

木のまわりで

【ねらい】

- 大きな木を囲み、みんなで楽しくゲームができるようにする。
- 木に親しみ、自然の中で遊ぶ楽しさを感じ取らせる。

【実施の条件】

- | | |
|---------------------|----------------|
| ●対 象／保育園、幼稚園、小学校低学年 | ●時 間 帯／昼間 |
| ●人 数／10人程度 | ●場 所／公園、雑木林、森林 |
| ●季 節／春～秋 | ●所要時間／50分程度 |

【準備するもの】

はがき大の画用紙、洗濯ばさみ、ハンカチ、鉛筆、落ちている枝、どんぐり

【すすめ方】

木のまわりに集まって楽しくゲームをしよう。

① グループ（5～6人）に分かれて、それぞれが好きな木をみつけよう。

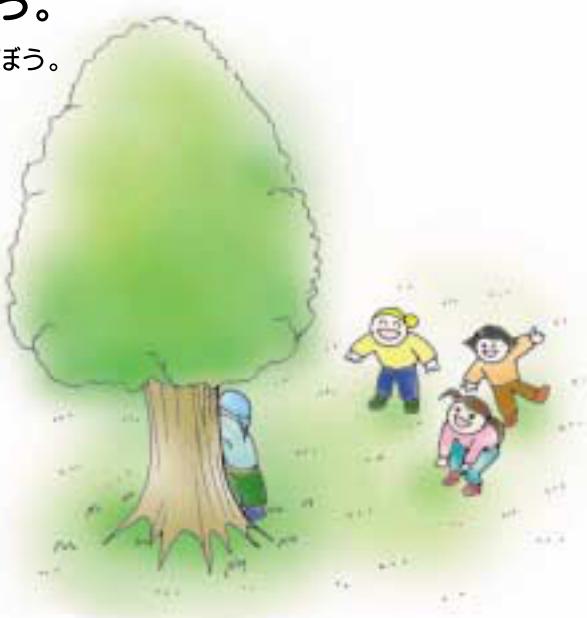
- できるだけ大きな木をみつけよう。
- リーダーを一人きめよう。

② 木を囲んで、楽しいゲームをしよう。

- いろいろなゲームをして木といっしょに楽しく遊ぼう。
 - ★「生き物バスケットゲーム」
 - ★「だるまさんがころんだ」
 - ★「ハンカチおとし」
 - ★「わたしはだれでしょう」等々

③ グループ間でゲームをしよう。

- ★「この木何の木、気になる木」
- ★「しっぽとり」
- ★「どんぐり遊び」
- ★「小枝のバランス競争」等々



木のまわりで

木をかこんで
たの
楽しくゲームを
しよう。



ゲーム

- 「生き物バスケットゲーム」
- 「だるまさんがころんだ」
- 「ハンカチおとし」
- 「わたしはだれでしょう」 等々
- 「この木何の木、気になる木」
- 「しっぽとり」
- 「どんぐり運び」
- 「小枝のバランス競争」 等々

ゲームの説明

【グループ内のゲーム】・・・・・・・・・・・

「生き物バスケットゲーム」

- とり、むし、はな等簡単な生き物の仲間をグループでひとつ決める。
- 各自がその仲間の名前を決める。
(例えば、むしならば「とんぼ、ちょう、ばった等」)
- お互いに手拍子を交えて、最初に自分の名前を、次にだれかの虫の名前を言う。
- 名前を言わされた者は、自分の名前を言った後同様にだれかの虫の名前を言う。
- この繰り返しを引っかかるないように続ける。



「わたしはだれでしょう」

- 事前に指導者の方で、だれでもわかる簡単な植物や生き物の名前を書いたカードを準備しておく。
(例えば、カエル、タンポポ、サル、カマキリなど)
- グループのリーダーに一枚カードを見せて、その名前を覚えてもらう。
- リーダーが自分のグループ内の中央に立ち、他のメンバーから質問を受け、それに答えながら、自分はなんという生き物か当ててもらう。

【グループ間のゲーム】・・・・・・・・・・・

「この木何の木、気になる木」

- グループ内で一人ずつ、囲んでいる木の特徴を一言ずつ発表する。
(葉っぱが手の形をして、まわりがギザギザ)
- 全員が言ったことを一枚の紙にまとめる。
- 他のグループと交換し、どのグループの木かあてる。



「しっぽとり」

- 各自が50cm位のビニールひもを腰の後ろに引っかけておき、他のグループのしっぽを取るゲーム。
- 自分の木にタッチしている時はしっぽはとられない。
- 他のグループのしっぽをとったら、その子はとった子のグループの一員となる。
- 時間を決めて人数の多いグループが勝ち。



「どんぐり運び」

- 各グループ10個ずつどんぐりを用意する。
- 各自がその仲間の名前を決める。
- 一定距離まで、小枝のはしで、各自がドングリを運び、はやく運び終わったグループが勝ち。



「小枝のバランス競争」

- 1メートルくらいの枝を用意する。
- 学年に応じて、たてあるいは横にして手のひらか指でバランスをとりながら、一定距離の所をまわってかえる。
- 次々と枝をバトンにしてはやくグループ全員が終わったところが勝ち。



バリティビデオ
2

木と話そう

【ねらい】

- 地域を代表する木のまわりで、木の気持ちになって話をすることができるようする。
- 季節によるいろいろな木の表情を感じ取らせる。
- 地域や自然の移り変わりを、木をとおして気づかせる。

【実施の条件】

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ●対 象／保育園、幼稚園、小学校低学年 | ●時 間 帯／昼間 |
| ●人 数／10人程度 | ●場 所／森・公園の木のまわり |
| ●季 節／春～秋 | ●所要時間／40分程度 |

【準備するもの】

木のまわりの様子を描いた絵（数枚）

【すすめ方】

森や公園・校庭の大きな木を囲んで、木とおはなしをしよう。

① 木のまわりに集まろう。木が生きていることを感じ取ろう。

- 大きな木だな。耳をあてると何か音がするぞ。
- 木も生きている。木のまわりで手をつないでみよう。
- 木の表面はどんな感じかな。
- 木の実が落ちているな。

② 絵を題材に、だれか一人が 木の気持ちになって話をしよう。

- この木は昔の生活の様子を知っているんだな。
- わたしたちより長く生きているんだな。
- 木のまわりで遊んだことも知っているよ。

③ 木（リーダーが木になる）に 質問してみよう。

- 昔、このへんはどんな様子でしたか。
- 一番うれしかったことは何ですか。
- かなしかったことは何ですか。



〈バリエーション〉

聴診器を用意すると、より鮮明に木の鼓動を聞くことができる。

あるいは木づちでたたいて伝わる音を聞いてみる。

同じ樹木で「赤ちゃんの木」「子どもの木」「お父さんの木」「おじいさんの木」などが近くにあれば、それぞれの立場で木と会話する展開も可能。

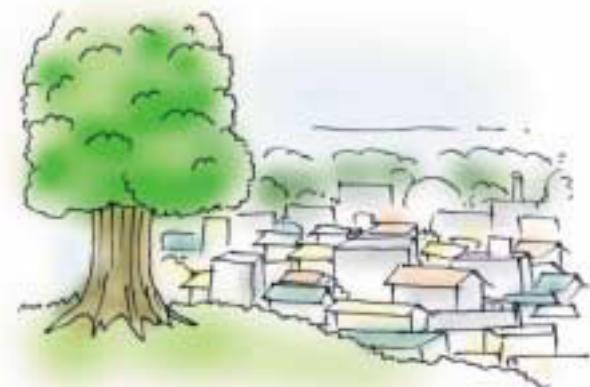
き は な
木 と 話 そ う



- ① 木のまわりに集まろう。
- ② 絵をもとにして、木の気持ちになって
話しをしよう。
- ③ 木に質問してみよう。

木と話すための絵

★下の絵を題材に使って、リーダーが木になり、木の考えていることや気持ちを話す。慣れてきたら、一人ひとりが話をする。



まちなみ
町並みをながめている木



木のまわりでかくれんぼ



木で雨やどりする女の子



せみとりの絵



木登りをしている子ども



木のこかげで休むおじいさん

3
ペリティビティ

木の実と葉っぱで クッキング

【ねらい】

- まごと遊びをとおして、雑木林や公園にあるいろいろな木の葉や実に対する興味・関心を高める。
- 自然の多様性や豊かさに気づかせる。

【実施の条件】

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ● 対 象／保育園、幼稚園、小学校低学年 | ● 時 間 帯／昼間 |
| ● 人 数／10人程度 | ● 場 所／雑木林・公園・校庭 |
| ● 季 節／秋 | ● 所要時間／90分程度 |

【準備するもの】

紙皿、プラスチックカップ、ビニール袋、落ち葉や木の実で作った料理サンプル、はし、スプーン、コップ、テーブル、テーブルカバー

【すすめ方】

木の葉や木の実などを使って、皿にきれいに盛りつけてまごと遊びをしよう。

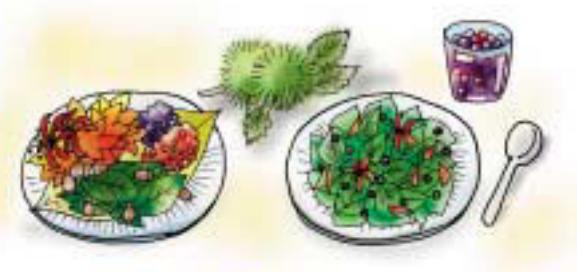
① 料理の材料として、いろいろな木の実や葉っぱ、落ちている小枝などを集めてみよう。

- いろんな木の葉や実があるな。
- 赤や紫の実があるぞ。もみじの葉もあるよ。
- どんな組み合わせにするとおいしそうかな。



② 皿などにきれいに盛りつけておいしそうな料理を作ろう。

- いろいろな色の葉っぱを皿に並べてみよう。
- 木の実をおくとおいしそうな料理になるぞ。
- 松ぼっくりも加えよう。



③ お料理コンテストをしよう。

- 料理の名前を考えよう。
私のは「木の葉入りのピラフ」だぞ。
- どのテーブルのがきれいで、おいしそうかな。
- ススキの穂もきれいだな。

〈バリエーション〉 デジタルカメラに記録すると「木の葉・木の実のお料理レシピ」集も作成可能。
「同じものをさがそう」などができる。

木の実と葉っぱで クッキング



- ① 料理の材料として、いろいろな木の実や葉っぱ、落ちている小枝などを集めてみよう。
- ② 皿などにきれいにもりつけておいしそうな料理を作ろう。
- ③ お料理コンテストをしよう。



バリティビデオ

4

竹や木のおもちゃづくり

【ねらい】

- 竹や木を使い、いろいろなおもちゃを作つて遊ぶことができるようにする。
- 素材としての竹や木のよさに気づかせる。

【実施の条件】

- | | |
|---------------------|--------------|
| ●対 象／保育園、幼稚園、小学校低学年 | ●時 間 帯／昼間 |
| ●人 数／5人程度 | ●場 所／教室 |
| ●季 節／夏から秋 | ●所要時間／120分程度 |

【準備するもの】

マダケ、メダケ、モウソウチク、すぎ材、ひのき材、小刀、なた、きり、のこぎり、木づち、ひも、ぬの、ものさし

【すすめ方】

竹や木をつかつて、楽しいおもちゃづくりをしよう。

① 竹や木でできたおもちゃをみてみよう。

- いろんなものができるんだね。
- ぼくも作つてみたいな。
- 竹や木のおもちゃで遊んでみたいなあ。

② 作つてみたい竹や木のおもちゃを選んでつくる。

- どれをつくつてみようかな。
- 水でっぽうにしよう。
- なかなかむずかしいな。
- うまくできたぞ。

③ つくつた竹や木のおもちゃで遊ぼう。

- よく飛ぶぞ。
- みんなで競争しよう。



※竹細工のおもちゃの例……水でっぽう、紙でっぽう、竹とんぼ、弓、鳥笛、竹馬、こけし等
※指導者側で時間や実態に応じて、材料の加工をおこなつておく。

※道具の扱いになれていない子どももいると考えられるので、支援をおこなう。

〈バリエーション〉 竹で水ぶえ、動物などができる。

野山へ行って素材集めからはじめる方法も考えられる。

たけ 竹や木のおもちゃづくり

《いろんなおもちゃ》



《水でっぽう》

たけ 竹をふしを残して切ります。

ふしのまんなかにキリで
あな 穴を開けます。

ぼうの先の方にネジを入れこみ、
おお ぬのを大きめにまき、ひもでゆわえます。



〈遊び方〉

さいしょは、竹を水につけ、ぼうをおしたり
ひいたりして水を入れます。



そして、いきおいよくぼうをおし、
みず 水をとばします。



- ① 竹や木でできたおもちゃを見てみよう。
- ② つくるみたい竹や木のおもちゃをえらんでつくる。
- ③ つくった竹や木のおもちゃであそぼう。



バリティビデオ

5

木の皮やつるでつくる

【ねらい】

- 木の皮やつるを使って、かざりや生活に役立つものがつくれることをとらえさせる。
- 木を守り育てることの大切さに気づかせる。

【実施の条件】

- | | |
|-------------|--------------|
| ●対 象／小学校中学年 | ●時 間 帯／昼間 |
| ●人 数／5人程度 | ●場 所／教室 |
| ●季 節／秋 | ●所要時間／120分程度 |

【準備するもの】

コウゾ、ミツマタの木の皮、フジのつる、剪定バサミ、ひも

【すすめ方】

紙の原料となるコウゾ、ミツマタの皮やフジのつるをつかって、かごや飾りをつくってみよう。

- ① コウゾの木の皮をはぎ、適当な幅にさく。
フジをつるの葉をとつるだけにする。
 - 木の皮がうまくむける。
 - つるってじょうぶだね。
- ② 皮のひもやつるを編んだり、巻いたりして、
かごや飾りをつくってみよう。
 - 簡単な敷物をつくってみよう。
 - 私はリースをつくってみよう。
 - ぼくはつるで巻いた小さな写真立てをつくろう。
- ③ 作品展を開こう。
 - 友達の作品のいいところを見つけよう。
 - 木もいろいろな利用の仕方があるんだな。
(和紙づくり、木材の利用の話)
 - 木を使うばかりでなく、育てていかなくてはいけないね。
緑を大切にしよう。

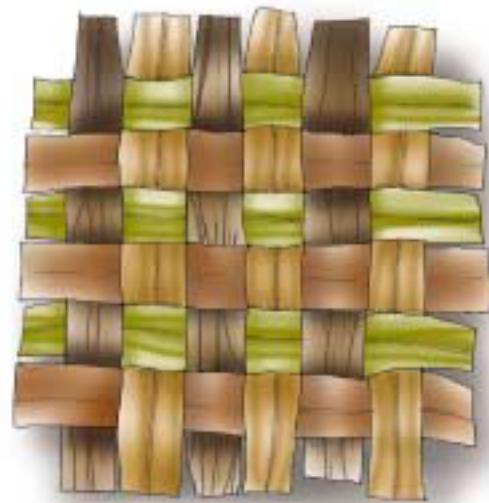
〈バリエーション〉牛乳パックや新聞紙で再生紙をつくってみよう。
地域のお年寄りを指導者に招いた実施も可能。



木の皮やつるでつくる き かわ



かざ
リースの飾り



き かわ あ しきもの
木の皮を編んだ敷物



りよう しやしん た
つるを利用した写真立て



かざ がくぶち
つるで飾った額縁